

感動一点の場

『西藏の踊り』

1981年 小川原 脩 画



真っ白な仮面に大きなかぶり物、腕の倍はありそうな袖丈、きゅっとへさきの上がったブーツと、私たちには見慣れない装いをしています。長い袖を振り回すように腕を振り、左足をぐいと上げた踊りの一瞬を捉えた、愛嬌のあるポーズです。「西藏」とはチベットのことで、小川原脩がチベットを旅した際に目にした寺院で行われる舞踏を描いています。大勢がひしめき合いながら祭りの様子を見守るスケッチ画も残されていますが、作品では踊り子一点に注視し、背景は一色に単純化しています。

本作をはじめ、小川原は同じサイズ（約33㍍×25㍍）で、このチベットの踊りを数点制作しました。小ぶりの画面と大らかな筆の動きは素朴な愛らしさをたたえながらも、今にも動き出しそうな躍動感、祭りの解放感、そして祈りのエネルギーを発する作品となっています。1982～83年の個展の際に、これらの作品を手に入れた方々がいました。それぞれに作品に想いを寄せ、対話していたことでしょう。日々、励まされたり、癒されたり…。美術館には「持ち主」を経た作品も多数あり、そのたどってきたストーリーも魅力的です。いまや美術館所蔵となった作品は、町の皆さんが「持ち主」です。どうぞ想いを寄せてお付き合いいただけたらと思っています。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

ふるさと探訪

444回

—「おの まさかりのこぎり」サツテと刃広—

倶知安町開基百年記念誌（美わしき大地の賛歌）の冒頭に「うっそうたる原始林に開拓の斧が入れられてから百年—」と書かれているように、開拓の象徴として斧が登場します。

斧と鉞は鋸と並んで最も基本的な伐木、造材の道具でしょう。開拓時に生えていた大木に普通の斧は歯が立たず、徐々に長く、重く改良されていきました。そうして出来た長大な斧は「サツテ」と呼ばれ、北海道独特の斧と言われています。また、鉞に比べて刃が著しく広い「刃広」も、木を繊維に沿って縦に割るのに適しており、作業効率を上げました。特に、明治から昭和初期にかけて、杣角造材作業（木を削って製材すること）で重宝され、刃広が広く使われたのも北海道ならではの風景です。

明治28（1895）年2月、北海道庁は、倶知安原野を貸し下げるべき区画として、780画を交付し、小区画5町歩を一戸分として貸下げました。5町歩とは、100間（約182㍍）×150間（約273㍍）の区画で、6年以内に農地になっていけば無償で自分の土地になりました。長くなったサツテも刃が広くなった刃広も使いこなすのが難しい道具でしたが、大きな樹木の生い茂っていた区画を期限内に開墾するため、気が遠くなるほど振り上げて使いこなしていたのでしょう。



サツテ（全長上40㍍、下31㍍）



刃広（刃長21～23㍍）

文：森脇 友行（倶知安風土館 学芸補助職員）

展覧会のお知らせ

■第1展示室

小川原脩展「遙かなる道程～70年の歩み」

20歳頃から本格的に絵画を学び、晩年の80歳代後半に至るまで、ひたむきに描き続けた画家・小川原脩の70年にわたる画業を、その代表作の数々とともに俯瞰します。

会 期：4月1日(水)～8月16日(日)

■第2展示室

人気投票がつくる展覧会 小川原脩展「私が選ぶ小川原脩」

会 期：開催中～4月12日(日)

武内コレクションによる北海道の美術

当館のもう一つのコレクションである、故・武内一男氏から寄贈された「武内コレクション」の中から北海道の美術史に焦点を当てた作品を紹介します。

会 期：4月18日(土)～7月5日(日)

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

世界美術館紀行～特別編①～

「清春白樺美術館」2000年（20分）／清春白樺美術館

今回は特別編として山梨県にある素敵な美術館を紹介します。その名の通り、武者小路実篤や志賀直哉など白樺派の文人たちが夢見ていた美術館で、ルオーや印象派の作品が展示されています。

日 時：4月4日(土)14時～15時

お話し：柴 勤（当館館長） 会 場：当館映像ルーム（無料）

アート探訪くみて・きいて>38～ポスト印象派⑦～

「アンリ・ルソーの素朴な夢」

パリ市の税関に勤務していたため「ドゥアニエ（税関吏）ルソー」と呼ばれるフランス素朴派の代表的な画家。一見稚拙な作品に見えながらも芸術性は高く、ピカソやゴッガンなどは早くから認めていました。

日 時：4月11日(土)14時～15時

お話し：柴 勤（当館館長） 会 場：当館映像ルーム（無料）

■ギャラリー・トーク

「武内コレクションによる北海道の美術」

新たに始まる展覧会の会場で、作品を見ながら学芸員のトークをお楽しみください。

日 時：4月18日(土)14時～14時30分 お話し：沼田絵美（当館学芸員） 会 場：当館展示室（無料）

■アート・シネマ館

「エルミタージュ幻想」2002年（96分）／ロシア・ドイツ・日本

美の宝庫、エルミタージュ美術館を舞台に繰り広げられるロマノフ王朝300年の歴史絵巻。過去と現在が交差する不思議な時間旅行、そのクライマックスはきらめく舞踏会の圧倒するような大スペクタクルです。

日 時：4月25日(土)14時～15時40分 お話し：柴 勤（当館館長） 会 場：当館映像ルーム（無料）

※展覧会およびアート・イベントの日程は変更になる場合があります

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観 覧 料：一 般 500円（400円）

高 校 生 300円（200円）

小中学生 100円（50円）

倶知安風土館 ☎22-6631

観 覧 料：一 般 200円（100円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※（ ）内は10名以上の団体料金

4月の休館日 毎週火曜日
13～17日（展示替えのため）

静かな対話

朝な夕なに行う展示室の巡回は、もう40年にもわたる習い性、今朝も人がいない会場をじつくりと回ってきました。作品や会場の様子をチェックするわけですが、実はひそかな楽しみもあるのです。それは、気になる作品との静かな「対話」。

誰に気兼ねすることもなく、心行くまで言葉を交わす絶好の機会です。時には「今日は私のところで」と、作品の方から誘いが来ることさえ…。長い長い休館が続いていますが、作品は皆さまとの対話をさぞや心待ちにしていることでしょう。

館 長 柴 勤